

茶

三重県の茶（生葉）の農業産出額は全国4位

三重県の茶（生葉）の産出額は、鹿児島県、静岡県、京都府に次ぎ全国第4位です。

三重県の茶は「伊勢茶」と呼ばれ、特に収穫前に1～2週間程度日光をさえぎって栽培する「かぶせ茶」が有名です。

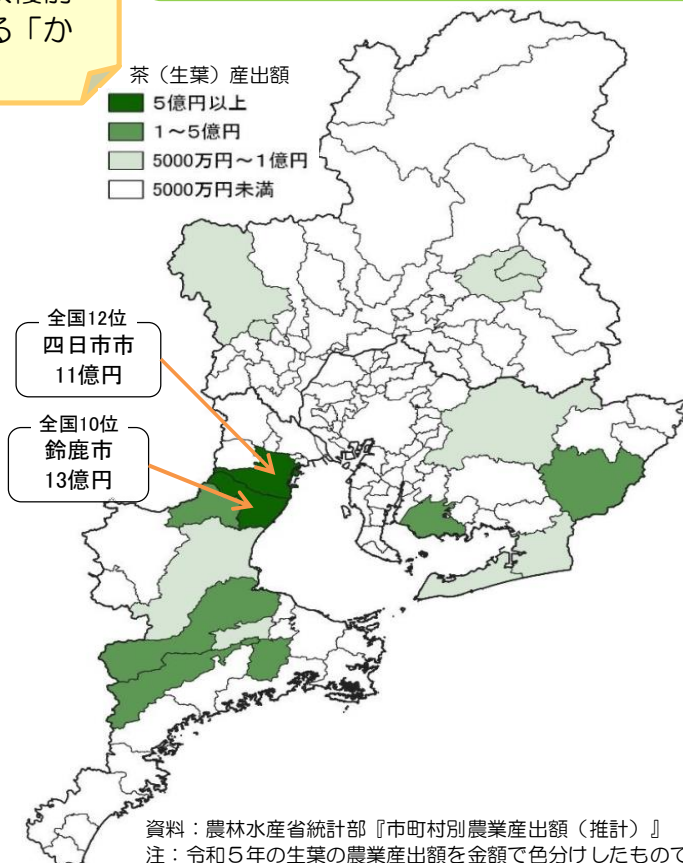
茶（生葉）の農業産出額の全国順位（令和5年）

順位	都道府県	茶産出額（億円）	全国に占める割合（％）
1（1）	鹿児島	140	32
2（2）	静岡	120	27
3（4）	京都	36	8
4（3）	三重	36	8
5（5）	福岡	24	5
6（6）	宮崎	14	3
7（7）	埼玉	12	3
8（10）	熊本	8	2
9（8）	佐賀	8	2
10（9）	愛知	7	2
：			
15（15）	岐阜	3	1

資料：農林水産省統計部『生産農業所得統計』

注：（ ）は前年の順位です。

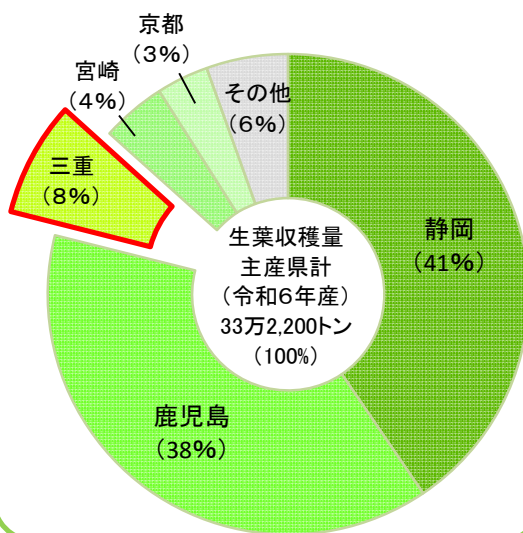
東海3県の茶（生葉）の市町村別農業産出額（令和5年）



資料：農林水産省統計部『市町村別農業産出額（推計）』

注：令和5年の生葉の農業産出額を金額で色分けしたものです。

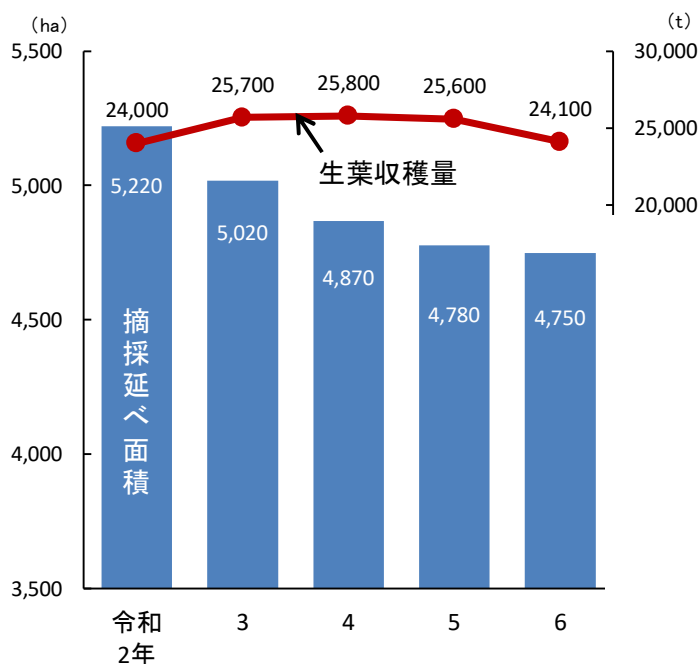
主産県の生葉収穫量割合（令和6年産）



資料：農林水産省統計部『作物統計』

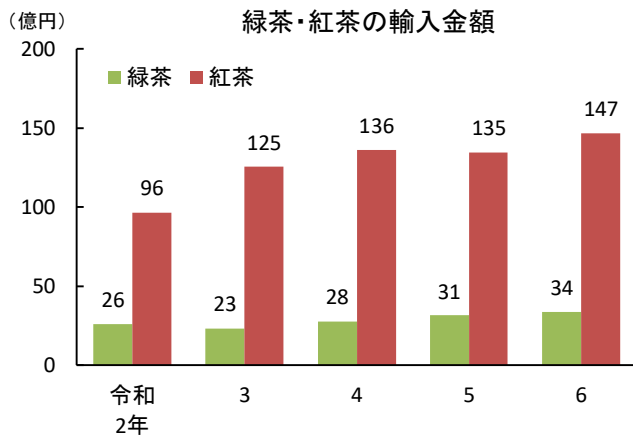
注：主産県とは、直近の全国調査年（令和2年産）における全国の茶栽培面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県及び茶の畑作物共済事業を実施し、半相殺方式を採用している都道府県です。

三重県の摘採延べ面積及び生茶収穫量の推移（令和2年～令和6年）

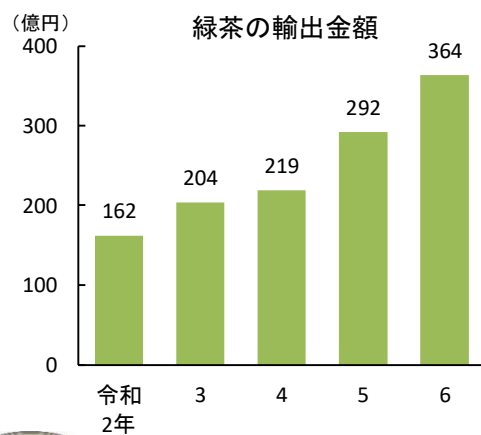


資料：農林水産省『作物統計』

茶の輸出入金額の推移と主な輸出先（令和2年～令和6年）



令和6年の主な輸入先は、緑茶では中華人民共和国が輸入金額のほぼ9割を占めています。紅茶ではスリランカ、インド、ケニアの3カ国が輸入金額のおよそ7割を占め、近年はアフタヌーンティーを楽しむなど若者を中心に人気を集め、紅茶の需要が拡大しています。

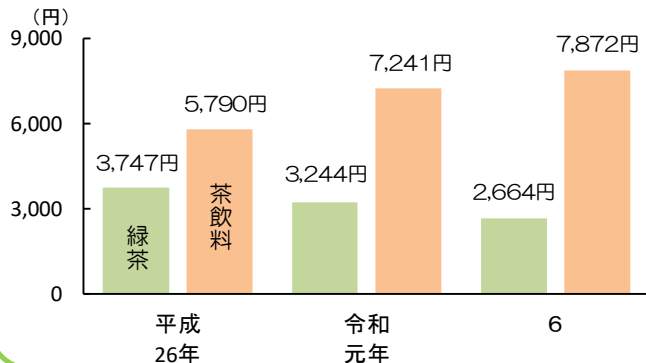


令和6年の緑茶の輸出金額は364億円と令和2年から倍増しました。主な輸出先はアメリカ合衆国で、全体の半分ほどを占めています。有機JAS認定の緑茶が輸出されています。

資料：農林水産省『農林水産物輸出入概況（輸出・輸入）』

1世帯当たりの緑茶及び茶飲料の年間支出金額の推移

総務省の家計調査によると、令和6年の1年間に1世帯が支出する緑茶の全国平均の金額は2,664円で、茶飲料は7,872円となっています。近年は茶飲料の金額が増加傾向です。



○農林水産省が公表しているお茶に関する情報です。

[お茶のページ](#)



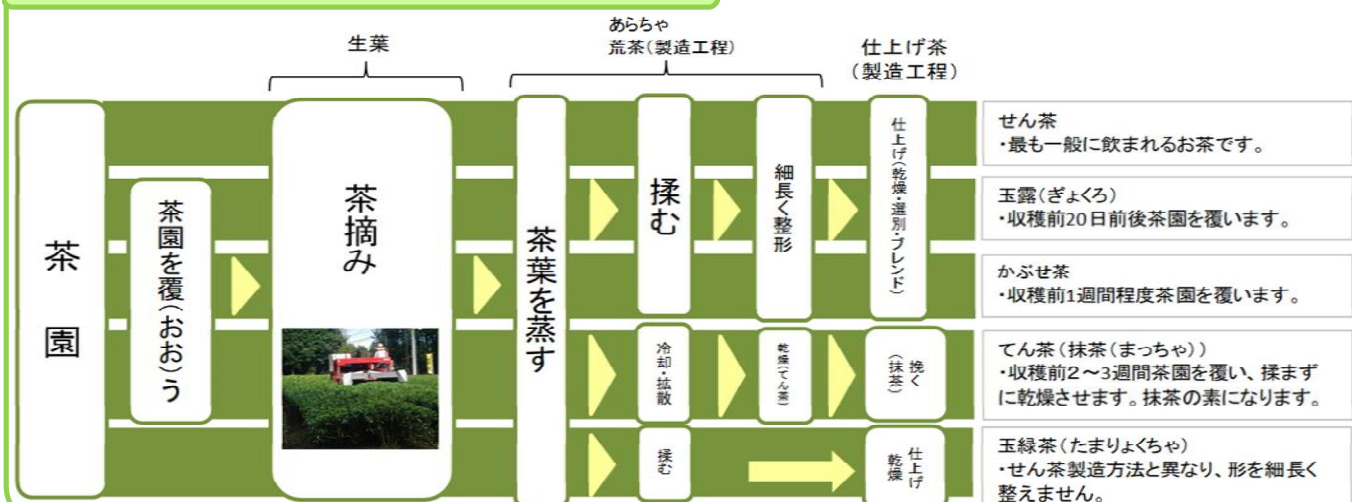
[お茶をはじめよう](#)
[「チャチャっとお茶生活キャンペーン」](#)



資料：総務省統計局『家計調査』

注：茶飲料とは、抽出した茶を缶やペットボトルなどの容器に詰めた飲料のことです。

【参考】お茶（緑茶）の種類と製造工程



資料：農林水産省『茶をめぐる情勢』（令和7年4月）